

年 組 名前：

早川北小 テーマ決めフィールドワーク



①

自然の疑問 時間かけ研究

早川北小は、南アルプス県野鳥公園（早川町黒桂）と連携し、総合的な学習の時間に公園内で自然環境を観察する「BEANS（ビーンズ）」に取り組んでいる。3年生以上の児童が自ら設定したテーマに沿って、同公園に常駐するスタッフや教職員らのサポートを受けながら、昆虫や植物の生態など

を研究している。「これ、なんだろう」。4日、同校3～6年の5人が参加し、同公園で開かれたビーンズのフィールドワーク。5年の稲石喜さんがトゲアリが運んでいる食べ物を観察していた。公園に常駐するスタッフや教職員らは「ここにも違う食べ物を運んでいるアリのいるよ」などと語りかけていた。

ビーンズは、同校に多く在籍している町外からの転入生が町に親しむ機会をつくろうと、2016年に開始。活動名は「自然科学者になろう」という意味の「Become A Natural Scientist」の頭文字から取った。児童は毎年度、2月の発表に向けて個々に研究テーマを設定。6月から半年かけて公園内でフィールドワークに取り組む。

開始当初から活動を支援する公園の大西信正所長は「疑問を観察しデータを取り、まとめるという科学的思考が子どもたちの生きる力になつてきた」と強調。同校は「町の宝である自然を学ぶ場に時間をかけて研究することで、町の良さを美観してほしい」としている。

◇ 県内の小中学校はさまざまな分野で、特色ある学習や行事に取り組んでいる。それぞれの学校の「イチ推し」の活動を紹介します。

●所在地 早川町大原野163
●全校児童 6人
●創立年月日 1977年4月1日
●学校教育目標 「自ら学ぶ明るくともくまの育成」
南アルプス県野鳥公園スタッフのサポートを受けながら、トゲアリの食べ物を調査する児童（左）
＝早川町黒桂

25年度は児童5人が「1年を通して虫の数調査」「トゲアリの食べ物調べ」「木の実生について」などのテーマで研究。公園内で観察しながら記録用紙にメモを取り、調査内容を表にまとめている。児童らは記録用紙や表を基にタブレット端末やパソコンでスライドを作成し、公園スタッフや家族らに研究結果を発表する。

研究テーマは年度ごとに決めているが、同じテーマを継続する児童も。稲石さんはトゲアリの研究に3年生から取り組んでいて「季節の変化でも結果に違いがあり、続けて研究できることが楽しい」と話す。

(2025年7月19日付 山梨日日新聞17面)

問1 はやかわきたしょう そうごうてき がくしゅう じかん と く ビーンズ かんそく
早川北小が総合的な学習の時間に取り組んでいる「BEANS」は、どこで、なにを観測しますか。

・どこで： ・なにを：

問2 25年度のテーマを、3つ答えてください。

.....

問3 あなたなら、何を観測し、どのような研究をしてみたいですか。自由に書いてください。

.....
.....